

○平成18年に設立し、森林再生や人口減少対策といった地域の諸課題解決の向けて、地域環境の保全を担う森林管理部門と、地域の魅力発信を担う観光振興部門に区分した体制で各種活動に取り組む。



キーワード

内発的

ボランティア

都市農村交流

農泊

移住・定住

古民家

基本情報

- 所在地：岐阜県恵那市
- 地域指定：山間農業地域
- 団体名：NPO法人奥矢作森林塾
- 選定表彰：
 - H25「全国過疎地域自立促進連盟会長賞」
 - H30「ふるさとづくり大賞」
 - R1「全国林業経営推奨行事林野庁長官賞」
- 主力商品・イベント：体験プログラム（林業体験、カヌー体験、五平餅づくりなど）・リフォーム塾
- 活用している地域資源：里山、木質資源、古民家
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）・（山村活性化対策）

取組の概要

- 移住希望者が購入・賃借した空き屋を、地元大工の指導のもと古民家リフォーム塾参加者やボランティアが改修。
- 移住後は、就農・就労のほか、田舎暮らしを支援するとともに、地域の山林再生に取り組む。



古民家リフォーム塾：
床の張替え作業

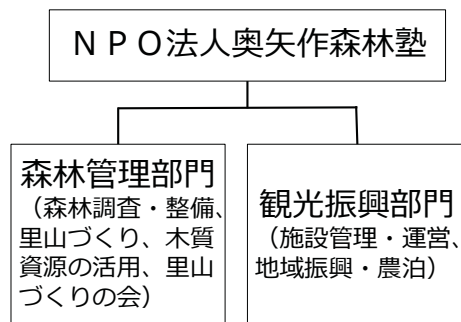


古民家リフォーム塾：第1号物件
「田舎暮らし体験館結の炭家」



里山づくり活動：
施業技術講習会の様子

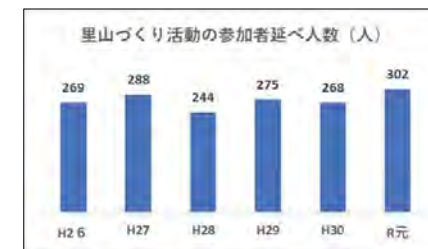
体制図



交流イベント：カヌー体験

取組の成果

- 28軒の空き家を改修し、70名の移住者を迎え入れ（H23-R1）。
- H26からの里山づくり活動により、新たに約300人の雇用を創出（R1）。
- その結果、約57haの森林整備を実施。



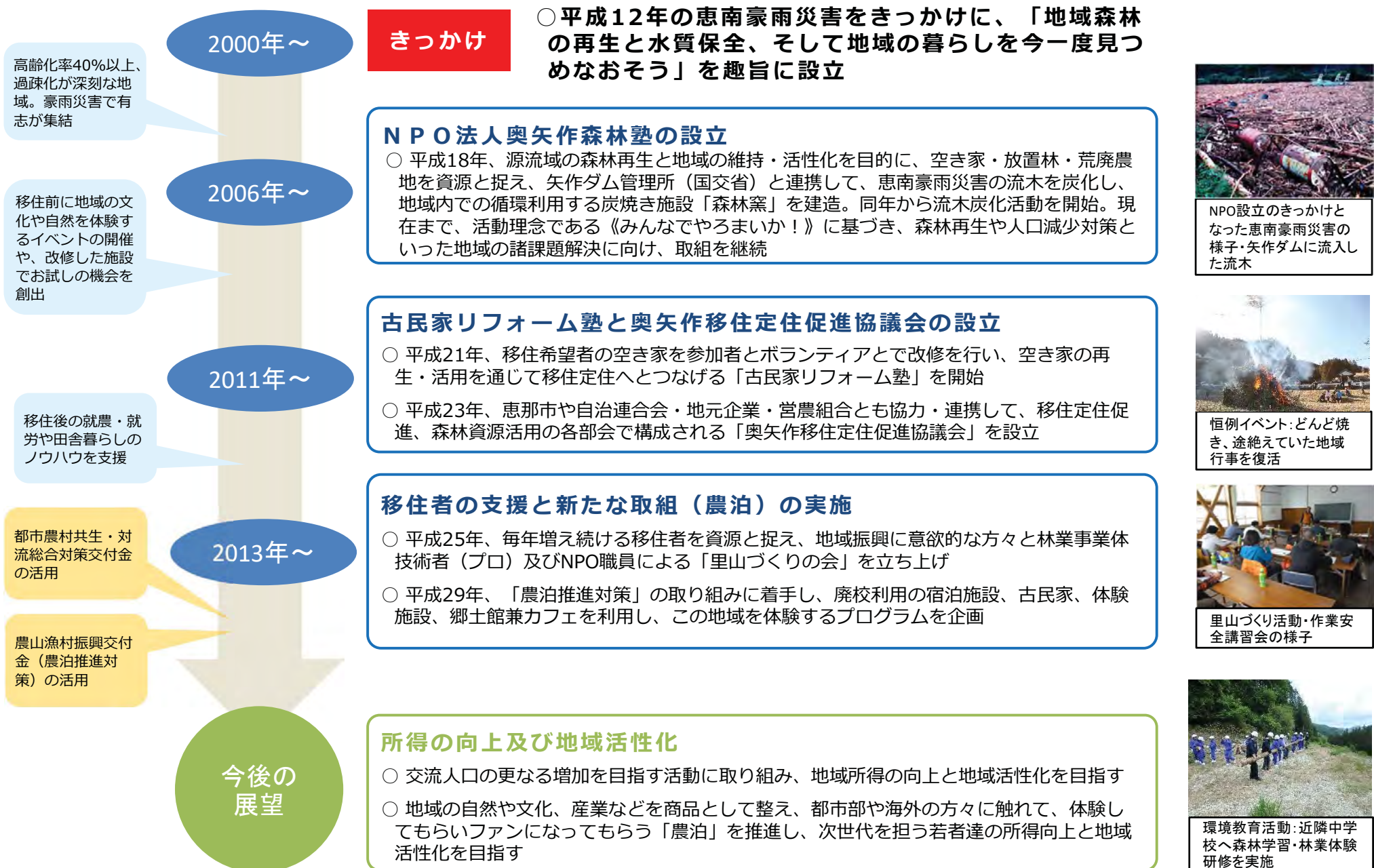
所在地▶岐阜県恵那市串原1149-2

連絡先▶TEL:0573-52-2808 FAX:0573-52-2808

E-mail:info@shinrinj.enat.jp

ウェブサイト▶<https://okuyahagi-shinrinjuku.com/>

【取組のプロセス】



- 平成27年設立の飛驒市が出資する第三セクター、通称「ヒダクマ」。これまで向き合っていなかった広葉樹を地域資源として安定かつ継続的にその価値を高め、商品として加工、流通。また、飛驒の匠の技を歴史・文化として発信。



キーワード

内発的

企業

都市農村交流

教育

デザイン

基本情報

- 所在地：岐阜県飛驒市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社飛驒の森でクマは踊る
- 選定表彰：
H27「東海農政局ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定
- 主力商品・イベント：広葉樹・体験ツアー
- 活用している地域資源：農林水産物（木材）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

取組の概要

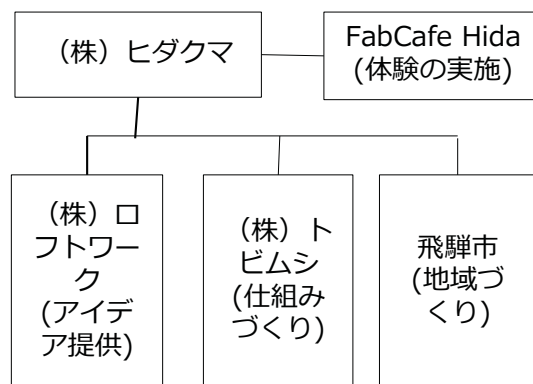
- チップにしかならず安価で飛驒市外に流出していた小径の広葉樹を、民間企業が有するデザインやクリエイティブの力で斬新な家具、什器、内装材等の商品を開発し販売。また、そうした取り組みを国内外に向けて積極的に発信。
- これまで地域になかった森林・木材に関する体験ツアーを企画・実施。また、海外の建築家を目指す学生等に学びの場を提供。

企業による木材関係
商品開発合宿

木工体験ワークショップ

海外大学のものづくり合宿
（インバウンド）

体制図

チップになる小径広葉樹から
作ったスツール

取組の成果

- 木製品等の売上は約430万円から約9,300万円（H27～R1）に増加。
- これまでに開催した体験プログラムの参加者は延べ約3,000人。宿泊者は延べ約1,000人。海外からはこれまでに約15か国、延べ約300人が滞在。

木製品等売上高（千円）



所在地▶岐阜県飛驒市古川町式之町6-17

連絡先▶TEL:0577-57-7686 FAX: 0577-57-7687

E-mail:info@hidakuma.com

ウェブサイト▶https://hidakuma.com

- 平成17年、下呂市合併後も地域の取り組みを継承するため任意組織を設立。平成元年に一般社団法人化。集落の野外を博物館に見立てた「里山ミュージアム」、馬瀬川の伝統魚法の観光ツアー化等に取り組み、名産の「鮎」を活かしたイベント開催、加工品開発など、地域の食としての魅力を引き出し。



キーワード

内発的

観光協会

都市農村交流

農泊

移住・定住

基本情報

- 所在地：岐阜県下呂市
- 地域指定：山間農業地域
- 団体名：一般社団法人馬瀬地方自然公園づくり協議会
- 選定表彰：
 - H19「立ち上がる農山漁村」認定
 - H20「平成の名水100選」、「第4回美の里づくりコンクール」農村振興局長賞
 - H24「グリーンツーリズム商品コンテスト2012」優秀賞
 - H27「第2回ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - H28「SAVOR JAPAN」認定
- 主力商品・イベント：馬瀬川上流鮎、水源米馬瀬ひかり・ウォーキング、体験ツアー
- 活用している地域資源：農林水産物（米・鮎）、農村環境（自然・景観）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 地域食材のブランド強化のため、馬瀬地域産品認定制度を創設し販売拡大、地域を活かした食の提供（馬瀬川上流鮎、水源米馬瀬ひかり、馬瀬鮎ドリア等）。
- 景観を活かした体験プログラム開発、ガイドツアーの造成（五平餅づくり体験、レンタサイクル里旅体験、ウォーキングイベント等）。
- （一社）下呂温泉観光協会と連携し観光客やインバウンドの誘致、メディアに対する情報発信。



里山ミュージアム



馬瀬川上流鮎

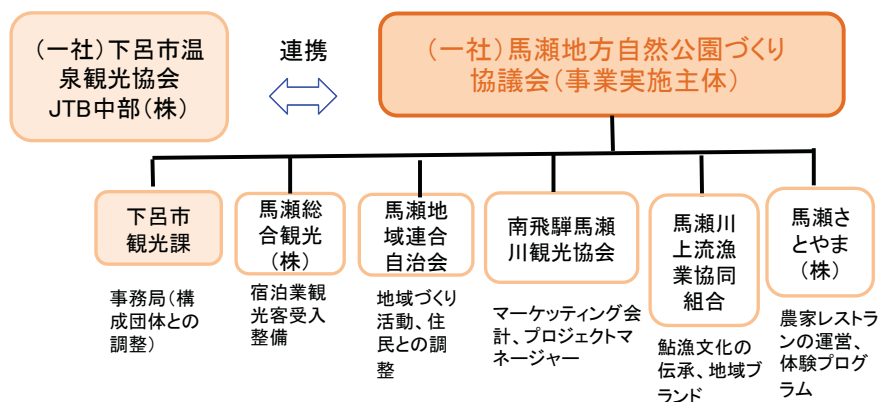


火ぶり鮎



紅葉巡りツアー

体制図



取組の成果

- 馬瀬地域の日帰り及び宿泊による観光消費額が13%増加（H28年1.2億円→R1年1.3億円）。
- H28年からR元年までの間の馬瀬地域における観光関連企業等への採用者は8名で、すべて定住者。



所在地▶岐阜県下呂市馬瀬名丸406下呂市役所 馬瀬振興事務所

連絡先▶TEL:0576-47-2111 FAX:0576-47-2621

E-mail:info@mazekanko.jp

ウェブサイト▶http://www.maze-shizenkouen.jp/index.php

【取組のプロセス】

自然生態系（馬瀬エコリバーシステム）の保全に取り組む

1995年～

きっかけ

○ 過疎化対策として、豊かな自然環境、美しい農村風景などの地域資源を活用し、人と自然が共生した地域づくりを開始

地域活性化を図るため、地域の自然生態系を保全し、地域住民、行政等が一体となった取組が実現

1996年～

馬瀬地方自然公園と委員会の設立

- 平成9～13年、農林業と観光の調和を図るフランスの「地方自然公園制度」を視察
- 平成16年、下呂市への合併後も馬瀬地域の取組みを継承するため「馬瀬地方自然公園」を設立
- 平成17年、馬瀬地方自然公園づくりを推進するため住民有志で「馬瀬地方自然公園づくり委員会」を設立

食と地域の交流促進対策交付金の活用

2009年～

地域資源の観光化と味の景勝地モデル地区づくり

- 平成21年、特産品や郷土料理を活用した観光メニューを作成。また、所得向上のため、ブランド化を推進する収益性の高い流通体制（ネット通販）を確立
- 平成26年、商品のブランド化を推進するため、地域産品認証制度を創設。また、インバウンド誘致の体制づくりを推進

都市農村共生・対流総合対策交付金の活用

2016年～

着地型観光の推進

- 平成28年、観光地域づくり事業体（DMC）「馬瀬さとやま株式会社」を設立し、本格的なビジネス化を開始
- 平成29年、「農泊推進対策」の取組みに着手し、食や景観を活かした滞在型観光の推進、インバウンド客の誘致、また、令和元年度に組織体制強化のため一般社団法人化

特産（馬瀬川上流鮎・水源米馬瀬ひかり）をブランド化

農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の活用

今後の展望

持続可能な地域づくり

- 景観保全活動、地域の食の魅力向上、着地型観光のあり方を改善し、持続可能な地域づくりに取り組む
- 元年度5カ年計画（テーマ：関係人口の確保）を作成し、定住人口の確保を開始。「安全安心で居心地のよい馬瀬地域」を目指す



集落の景観整備：水仙の球根植え



地域ブランド化認定商品【水源米馬瀬ひかり】



着地型体験 郷土食である五平餅作り体験



外国人客対象バイクツアー

- 平成23年、伊豆市による公営ジビエ食肉加工施設「イズシカ問屋」を開設、有害鳥獣の食肉利用を開始。ジビエを市の新たな地域ブランドとして創出、地域の活性化を推進。



キーワード

内発的

猟友会

ジビエ

教育

ソーシャルビジネス

基本情報

- 所在地：静岡県伊豆市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：伊豆市役所
- 選定表彰：第7回「ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：「イズシカ肉」「イズシシ肉」（ジビエ）
- 活用している地域資源：野生鳥獣（ニホンジカ、イノシシ）
- 主な国等の支援策：鳥獣被害防止総合対策交付金

取組の概要

- 市内のシカ、イノシシによる農作物被害は年間1億円を超え、市では猟友会と連携して捕獲してきたが、「食べて守る」を理念として「イズシカ問屋」を設立。「イズシカ」を市の新たな特産として販売開始。
- 地元高等学校の部活動へ積極的に支援し、イズシカを活用したメニューを開発。また、小中学校への出前授業など、若年層への啓蒙・PR活動。
- 捕獲頭数、イズシカ取扱い販売店は年々増加、猟師への報酬など地域活性化に貢献。



イズシカ肉

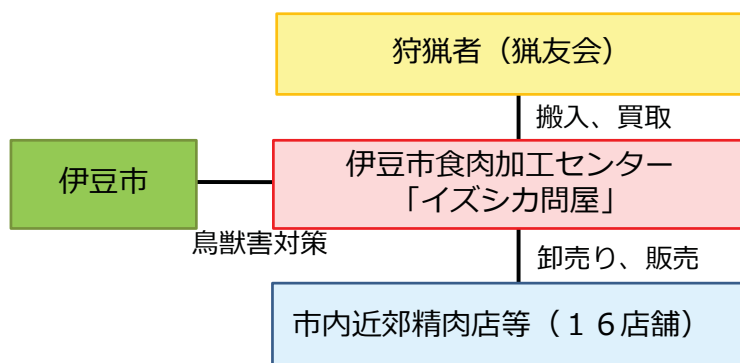


イズシカ問屋と作業員



イベントでイズシカをPR

体制図



取組の成果

- 売上：400万円（H23）→2,600万円（R元）
- 販売店：4店舗（H23）→16店舗（R元）
- シカ・イノシシ搬入頭数：980頭（R元）



イズシカ問屋シンボルマーク

所在地▶静岡県伊豆市小立野24-1（伊豆市役所産業部農林水産課）

連絡先▶TEL:0558-72-9895 FAX:0558-72-9909

E-mail:nousui@city.izu.shizuoka.jp

ウェブサイト▶<http://www.city.izu.shizuoka.jp>

- 平成6年、任意団体を組織し消滅の危機にあった棚田の保全活動を開始。平成22年に法人化し、同時に棚田オーナー制度を導入。学生や企業との連携、女性の活躍により、来客数が大幅に増加。



キーワード

外部との連携

オーナー制度

学生・ボランティア

都市農村交流

棚田保全

基本情報

- 所在地：静岡県菊川市
- 地域指定：平地地域
- 団体名：特定非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部
- 選定表彰：
 - 豊かなむらづくり表彰事業農林水産大臣賞（R2年）
 - 第7回関東農政局ディスカバー農山漁村の宝（R2年）
 - 地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰（H29）
- 主力商品・イベント：棚田保全活動、棚田オーナー制度
- 活用している地域資源：棚田、農林水産物、自然景観
- 主な国等の支援策：中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金

取組の概要

- 消滅の危機にあった「千框の棚田」は、法人化と同時にオーナー制度を導入。年間50組を受入れ、棚田保全と都市農村交流に大きく寄与
- 棚田保全活動に必要な人力、知恵や活力を静岡大に求めた結果、大学内にサークルが発足。現在では60名を超え大変貴重な存在。また、地元企業との連携により棚田の再生が促進
- 棚田を介したイベントは年間25回開催され、来客数は2,700名。地場産農産物の販売や体験型イベントなど、学生や地域住民、地元女性組織等の活躍により地域の賑わい



静岡大サークル「棚田研究会」

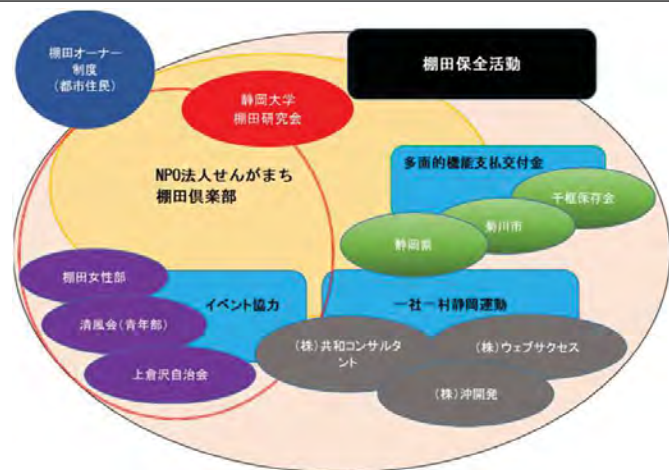


棚田オーナーの稲刈



棚田イベント「あぜ道アート」

体制図



取組の成果

- 棚田再生面積：1 ha（H22）→3.5ha（R元）
- 棚田オーナー：100人（H22）→1,200人（R元）
（田植え、稲刈り等参加のべ人数）
- 体験プログラム、イベント参加者数：300人（H22）→2,700人（H26）



昭和40年頃の棚田

所在地▶静岡県菊川市倉沢 連絡先▶ E-mail:sengamachi@tanada1504.net
ウェブサイト▶<https://www.tanada1504.net/>

【取組のプロセス】

最盛期（昭和40年頃）には約10haあった棚田が消滅の危機。このままでは地域としての活力も失う可能性

1994年～

きっかけ

○当時の青年農業者が中心となり、戦国時代より続く「千框の棚田」の
人力による再生作業を開始

有志で再生作業を開始

- 平成6年、「千枚田を考える会」を設立し、棚田保全活動を開始
- 平成11年、地道な活動が認められ、静岡県の「棚田等十選」に認定。市内外から多くのボランティアが訪れるようになった事を契機に、名称を「上倉沢棚田保全推進委員会」に変更



法人設立当初の棚田の状況

ボランティアが増加、かつての美しい棚田景観を少しずつ取り戻す

1999年～

行政、教育機関、企業、地元団体との連携による、むらづくり推進体制確立

2010年～

非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部設立

- 平成22年、地元合意の基「非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部」を設立。本格的な保全活動を開始。法人化と同時に棚田オーナー制度を導入
- 必要な人力・活力を静岡大学に求めた結果「静岡大学棚田研究会」が発足。貴重な存在に。また、地元企業3社との連携を開始。水稻、そば栽培に採草地を含め棚田面積は約6haまでに回復（令和元年）



静岡大生による保全活動

指定棚田地域の指定により、地域住民の意識が更に向上

2020年～

イベントによる地域活性化、指定棚田地域指定

- 棚田を介した各種イベントや活動は年間25回開催。地域内外の参加・交流人口は2,700名
- 令和2年、棚田振興法に基づく「指定棚田地域」に指定。平成25年には「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産認定。地域資源として交流・地域活性化に大きく寄与



イベント「棚田市場」

指定棚田地域指定により、中山間地域直接支払交付金の活用が可能に

今後の展望

「地域の宝物」を次世代につなぐ

- 令和2年度より、県の補助を受け、地元企業、静岡大学等との協働で棚田米や地場産品を活用した和・洋菓子を開発するプロジェクト「千框おもてなし商品づくり」を開始。せんがまち400年の物語が語れる商品づくりに取り組んでいる
- 棚田のある空間づくり、10haの桃源郷「せんがまちツーリズム」の実現により、地域の経済的な豊かさを求めていく。今後は産直・交流施設整備も検討



地域の宝を次世代へ

- 平成13年に水田農業を行う女性らで「T I（豊橋稲作）レディース」を立ち上げ、女性目線での農作業に係る情報交換や、「未来につなげる農業」を合言葉に学校教育活動や消費者との交流を図る。



キーワード

内発的

ボランティア

女性

教育

基本情報

- 所在地：愛知県豊橋市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：有限会社みずほ農産
- 選定表彰：
H20「第36回毎日農業記録賞」優秀賞
R1「愛知農業賞（あいちアグリワード）」
- 主力商品・イベント：米・農業講座「見たい！食べ隊！豊橋農業！」、「豊橋東部みどり会こども絵画展」
- 活用している地域資源：農林水産物(米)
- 主な国等の支援策：多面的機能支払交付金

取組の概要

- 女性農業者がコミュニケーションをとれる環境づくりとして、平成13年に「T I（豊橋稲作）レディース」を立ち上げ、平成23年には、他市町村の農業委員とともに「農業委員会レディースあいち」を設立。
- 一般消費者に地域農業を理解してもらうため農業講座「見たい！食べ隊！豊橋農業！」を開催。また、地元小学生に水田農業を題材とした「豊橋東部みどり会こども絵画展」を実行。



小学生の水稲作業体験

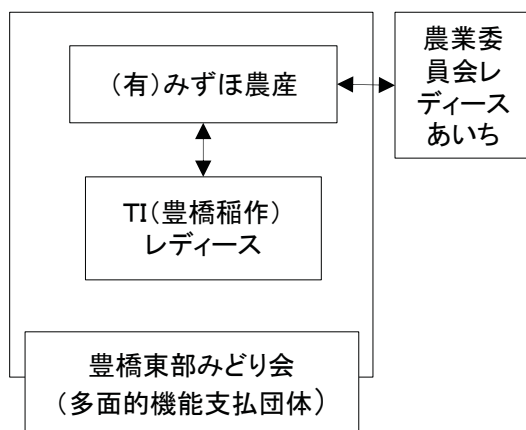


豊橋東部みどり会 こども絵画展応募箱を教頭先生にお渡し



旧多米小学校の木造校舎を活用した子ども絵画展

体制図



家族と社員の皆さん

取組の成果

- みずほ農産の水稲経営面積は、35ha（H27）から55ha（R1）へ飛躍的に増加。
- 年間売上高は、過去5年間で約7.8～9.7千万円（右図参照）。



所在地▶愛知県豊橋市多米中町四丁目19番地10

連絡先▶TEL:0532-62-5414 FAX:0532-62-5418

E-mail:mizauhonousan@gmail.com

ウェブサイト▶http://

- 平成3年、有限会社として設立し、平成31年に株式会社に組織改編。「たまごで人をしあわせに」を経営理念に、付加価値の高い卵を生産。うみたて卵の直売、加工品（洋菓子）販売及びたまご料理店を開店し、消費者へ提供。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

教育

洋菓子店

基本情報

- 所在地：愛知県常滑市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社デイリーファーム
- 選定表彰：
 - H28「6次産業化優良事例表彰」食料産業局長賞
 - R 1「ディスカバー農山漁村の宝」東海農政局選定
 - R 2「高橋養鶏賞」
- 主力商品・イベント：卵、スイーツ、卵料理・食育活動
- 活用している地域資源：農林水産物(卵)
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農山漁村活性化整備対策）

取組の概要

- 養鶏場として大正より営業しており、平成27年6月から洋菓子店（ココテラス）を開店、卵の直売と加工品を販売。
- さらなる卵の可能性を消費者に提供するため、平成30年6月に国家戦略特区を活用して、農家レストラン「レシピヲ」をオープン。
- 地産地消・耕畜連携にも取り組み、学習会を実施。



ココテラスの外観

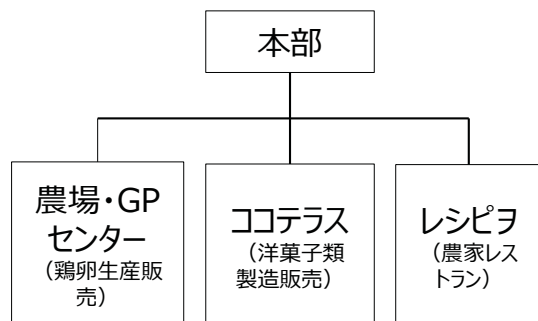


地元の学校での食育活動



地元タクシー会社と連携したデリバリーサービス

体制図



たまごをたっぷり使用した手作りスイーツ

取組の成果

- 洋菓子店「ココテラス」の売上は約1億6,700万円（R1）、農家レストラン「レシピヲ」は約7,700万円（R1）を売上。
- 来客数は年間約15万人（R1）で、遠方からのファンも多く、知多半島の観光誘客に貢献。



所在地▶愛知県常滑市大谷字芦狭間5番地
 連絡先▶TEL:0569-37-0072 FAX: 0569-37-0256
 E-mail:momo.ichita@dailyfarm.co.jp
 ウェブサイト▶<https://dailyfarm.co.jp/>

- 昭和26年、豆腐機器メーカーとして創業。地場産業の萬古焼きメーカーとの連携をきっかけに原料となる国産大豆の需要拡大に向けた活動を開始。農商工連携を推進し、契約栽培面積の拡大や全国各地の大豆の受託加工、6次産業化などの支援を通じて農業振興に取り組む。



キーワード

外部との連携

企業

6次産業化

教育

機能性食品

基本情報

- 所在地：三重県四日市市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：ミナミ産業株式会社
- 選定表彰：
 - H18「第4回日本環境経営大賞」環境プロジェクト賞
 - H21「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」
 - H30「第5回もったいない大賞」
 - R1「第6回ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：微粉碎大豆パウダー・海外展示会、食育イベント
- 活用している地域資源：農林水産物（大豆）

取組の概要

- 農研機構などと連携し、高機能性大豆「ななほまれ」の研究を行い、高付加価値大豆の普及を図る。
- 大豆製品の海外販路開拓事業に取り組み、海外28ヶ国へ輸出。また海外で食育イベント等も実施。
- 地方公共団体と連携して食育イベントの開催や、フランス、NY、香港、シンガポール、上海などでも同様のイベントを実施。
- 独自粉碎技術で大豆を20μmに微粉碎、おから無排出化した豆腐、豆乳製造方法の開発。



にがり農法による大豆栽培

海外採用事例
(自家製豆腐作り)海外展示会
(NYセミナー)

体制図

ミナミ産業株式会社

機械事業部

- ・大豆加工食品（豆腐、豆乳、油揚げ等）製造機械
- ・食品機械、プラント
- ・粉碎機、空気輸送装置
- ・ウルトラファインパブル関連機器

電子事業部

- ・検査機器
- ・電子事業

食品事業部

- ・大豆パウダ
- ・受託粉碎
- ・豆乳
- ・その他の食品類

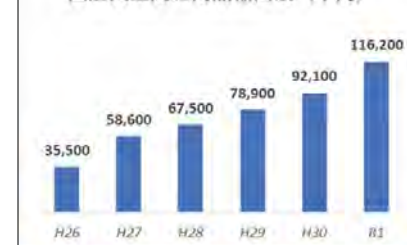


微粉碎大豆パウダー

取組の成果

- 国産大豆製品の輸出額は、約3,600万円から約11,600万円に増加（H26～R1）した他、大豆栽培面積は約160ha（R1）まで拡大。
- 「おからの出ない大豆丸ごと豆腐技術」を開発し、当該技術を活用して、65店舗の新規開業に貢献。

国産大豆関連商品輸出額（千円）



所在地 ▶ 三重県四日市市東新町3-18

連絡先 ▶ TEL:059-331-2158 FAX: 059-331-7324

E-mail: info@minamisangyo.com

ウェブサイト ▶ <https://www.minamisangyo.com/>

○平成18年開所、平成28年多機能型事業所に移行。知的障害・精神障害を持つ施設利用者18名が、ハウスでのイチゴ栽培を中心とした農作業を通年で実施。平成30年にイチゴ生産でASIA GAP認証を取得。



キーワード

内発的

障がい者

企業

農福

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人まつさか福祉会
- 主力商品・イベント：イチゴ、イチゴジャム、漬物・委託事業（イベント、秋まつり）
- 活用している地域資源：農林水産物（イチゴ・ナバナ・金ゴマ・ニンニク・カボチャ等）
- 主な国等の支援策：「農」のある暮らしづくり交付金

取組の概要

- 離農した農業者から借り受けたイチゴハウス35aに、高設栽培システムを組み込み、作業負担度の大きい中腰姿勢を避け、作業しやすくしている。
- 高品質のイチゴが販売先から評価され、平成30年には国際線機内食にも提供。また、イチゴジャム等の加工にも取り組む。
- イチゴ栽培技術を信頼され、市内の離農した農業者から空きハウスや農地を借り、生産面積が増加。また、生産量の増加に伴い、県内大手スーパーと直接取引を開始。
- 現在、ブルーベリー等の栽培も開始し商品数が増加。将来の目標は3次産業までつなげて6次産業化に取り組む予定。



イチゴの収穫作業

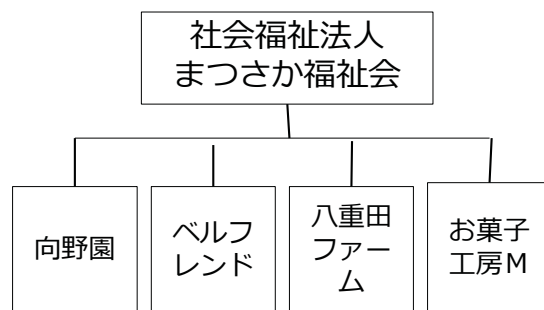


ナバナの収穫作業



漬物の加工作業

体制図



国際線機内食に提供されたイチゴ

取組の成果

- 売上は年々増加し、令和元年度は約2,300万円に到達。
- 安定的な経営により、就労継続支援B型事業の利用者の平均月額工賃は32,544円（H30）と、三重県の平均15,561円を大幅に上回る。

売上（万円）



所在地 ▶ 三重県松阪市八重田町31-6

連絡先 ▶ TEL:0598-63-1551 FAX : 0598-63-1555

E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.mukaiyaebell.or.jp/index.html>

○昭和61年、有限会社を設立。平成16年から、野趣あふれる海女小屋で、海女が獲った鮑、サザエ等や海藻を味わい、現役海女の海女漁や生活についての語りを聞き、地元の相違音頭と一緒に踊るなど、海女文化に触れる取組。



キーワード

内発的

企業

都市農村交流

海女

基本情報

- 所在地：三重県鳥羽市
- 地域指定：中間農業地域
- 団体名：海女小屋はちまんかまど 有限会社 兵吉屋
- 選定表彰：
 - H23「第2回地域再生大賞」優秀賞
 - H24「おもてなし経営企業選」選出企業
 - H28「第1回日本サービス大賞」地方創生大臣賞
 - H29「中部運輸局優良事業者等局長表彰」
 - H30「第4回ジャパン・ツーリズム・アワード」入賞
と「第12回産業観光まちづくり大賞」金賞
 - R2「食かけるプライズ2020」食かける賞
- 主力商品・イベント：魚介・海女小屋体験
- 活用している地域資源：農林水産物（魚介）

取組の概要

- H16年に、日本で初めて実際に使用している海女小屋を開放し、現役海女が北米のお客様をもてなしたことをきっかけに、海女小屋体験サービスを開始。
- 発展途上国の若手経営者や公務員の事業研修プログラムの受け入れを行い、次世代の担い手育成に協力。また外国人観光客のために、フリーwi-fi・キャッシュレス化や礼拝堂等を設置。



伊勢志摩サミットプレスツアー

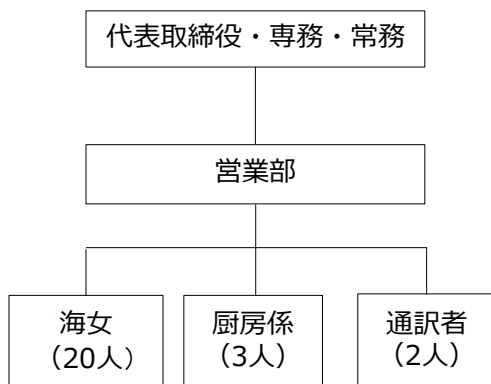


ロシア観光客の海女体験



ロシア観光客の炭焼体験

体制図

海女小屋体験で味わえる
伊勢志摩の魚介

取組の成果

- 海女小屋総受入人数は約2万3,000人（H30）で、うち外国人観光客が約9,300人。
- 海女小屋体験が、海女の生きがい、海女の収入増加、雇用の創出、新たな観光地の誕生等、海女文化と食文化の継承にも貢献。



所在地▶三重県鳥羽市相違町1094番地

連絡先▶TEL:0599-33-6145 FAX:0599-33-7407

E-mail:info@amakoya.com

ウェブサイト▶<https://www.amakoya.com/>

- 平成15年に有限会社を設立。農村料理レストラン、加工所などで地元農産物を使用した料理や商品を生産するほか、大豆などを使った料理体験などを通じ、農村の文化や技術を伝承。



キーワード

内発的

地域住民

6次産業化

都市農村交流

教育

基本情報

- 所在地：三重県多気町
- 地域指定：中間農業地域
- 団体名：有限会社せいわの里
- 選定表彰：
 - H20「第59回全国農業コンクール全国大会」名誉賞
 - H22「豊かなむらづくり全国表彰事業」日本農林漁業振興会会長賞
 - H26「第1回ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：野菜、大豆製品（豆腐、アゲ、みそ、総菜等）・体験学習
- 活用している地域資源：農林水産物（野菜と豆）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 農村から生まれる産物・豊かな文化・お年寄りの持つ技術を生かそうと、地元の女性を中心となり地域の賛同者を募り、「有限会社せいわの里」を設立。
- 農村料理レストランと体験工房・加工施設を拠点に、地域の団体と協力した地域活性化活動などに取り組む。



農村料理レストランで働く皆さん



30種類以上のバイキング

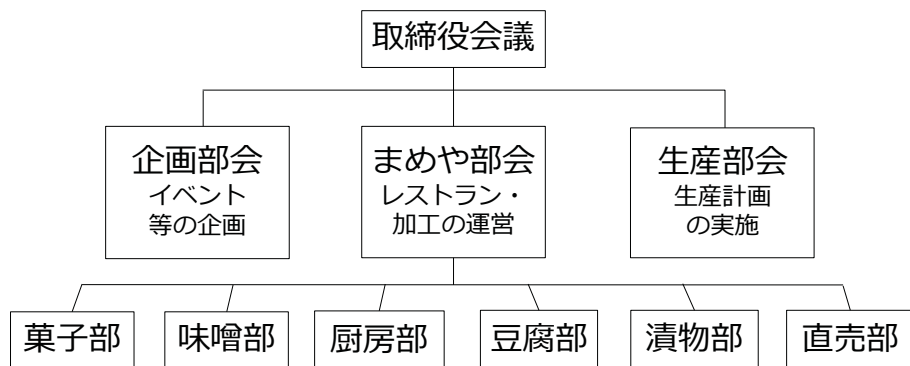


70種類以上の商品



地元中学生と体験学習・商品メニューを開発

体制図



取組の成果

- 農村料理レストランの来客者は年間9.5万人（H30）。農産物を納品する生産者は130人から165人に増加（H26～H30）。
- 地元の農産物買上額や、地元雇用の人件費等の地元への貢献額は約6,000万円（H30）であり、地域に貢献。



所在地▶三重県多気郡多気町丹生5643

連絡先▶TEL:0598-49-4300 FAX:0598-49-4300

E-mail : mameya@ma.mctv.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.ma.mctv.ne.jp/~mameya>

- 平成23年に法人化。約300ha超の経営面積で主食用米を中心に加工用米やジャガイモを生産し、コメは百貨店やスーパー等に販売。杵つき餅の生産販売など、6次産業化にも取り組む。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

IoT

基本情報

- 所在地：三重県明和町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：株式会社小林農産
- 選定表彰：
 - H29「アグリフードEXPO輝く経営大賞」優秀賞
 - H30「6次産業化アワード」奨励賞ICT技術活用賞
- 主力商品・イベント：コシヒカリ「宇田ひかり」、杵つき餅・展示会等
- 活用している地域資源：農林水産物(米)
- 主な国等の支援策：農地中間管理事業

取組の概要

- 法人化に伴い「6次産業化・地産地消法」の認定を受け、賞味期限を大幅に伸ばした杵つき餅を開発・販売。その後、賞味期限を1年に延長するなどの改良をし、順調に売上を増加。
- 作業効率向上のため、GPSガイダンス&自動操舵補助付きの田植機と自動直進畦塗機を開発・導入。また、独自に汎用GPSの開発と農機の作業記録管理ソフト・圃場センサーを開発中。
- 減農薬、減化学肥料による特別栽培米コシヒカリ「宇田ひかり」をインターネット販売や大手商社等により販路拡大。



杵つき餅
(醤油味・濃いよもぎ)



GPSガイダンス&自動
操舵補助付きの田植機



若手の登用
(39歳の社長と37歳の課長)

体制図

株式会社小林農産

- 役職員19名
- ・社員の4割が20～30歳代)
 - ・臨時雇用約20名
 - ・H29より情報システム部新設



最高級ブランド米
「宇田ひかり」

取組の成果

- 全体売上高は、1.9億円から8.8億円に堅調に推移(H26～R2)。
- 役職員19名のうち20～30歳代が7名在籍。若手職員を積極的に登用。
- 気候リスク分散を図るため、令和2年度に支社1号店(埼玉県羽生市)を出店。

全体売上高(億円)



所在地▶三重県多気郡明和町金剛坂690

連絡先▶TEL:0596-52-0214 FAX:0596-52-0339

E-mail:info@kobayashi-agri.co.jp

ウェブサイト▶<https://www.kobayashi-agri.co.jp/index.html>

- 安全・安心な米づくりから地産地消へ、「美味しい米」で創造する新たな商品開発、そして、農業を通じた技術習得と就労機会の創出に取り組む。



キーワード

内発的

障がい者

中山間での雇用

6次産業化

基本情報

- 所在地：滋賀県日野町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：社会福祉法人わたむきの里福祉社会
- 選定表彰：R02 米・食味分析鑑定コンクール国際大会（金賞）
H30近畿ディスカバー農山漁村の宝選定
- 主力商品：
農林水産物（米）
- 活用している地域資源：
農林水産物（水稻）
- 主な国等の支援策：
H29農山漁村振興交付金（農福連携対策）



主力商品のチラシ

取組の概要

- 中山間である本地域では、高齢化・後継者不足による耕作放棄地の増加が地域課題であり、その解決に向け、地域の方々との連携により本地域農業活性の一翼を担う。
- 安全安心で環境にも配慮した米づくりと生産したお米は、外部販売・事業所内での給食・高齢者配食サービスにも活用し、地産地消を推進。また「美味しい米」で創造する各種新商品を開発。
- 障害のある方々にとっての職業技術習得の機会創出と個々の就労という目標に向けてのステップアップを推進。農業を通じて、作業所の障害のある方と地域住民の方との交流機会が増え、障害のある方のやりがいや充実感が増大。



苗箱の洗浄の様子



田植え作業



稲刈り作業



「美味しい米」で作られた新商品

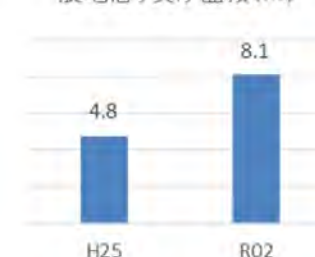
体制図



取組の成果

- 農地の借り受け面積は4.2ha(H25)から8.1ha(R02)に増加。
- 障害のある方の企業等への就労は0人(H25)から、4人(H29)へ増加。
- R01にG-GAP認証を取得（R02に更新）。

農地借り受け面積(ha)



所在地▶滋賀県蒲生郡日野町上野田805

連絡先▶TEL:0748-53-1061 FAX:0748-53-2972

E-mail:s-watamuki@gaea.ocn.ne.jp ウェブサイト▶http://www.wa-sato.jp/

○ 部門間等の連携と乳製品の商品開発による“湖華舞”ブランドの確立とチーズ作り体験など食育を絡めた事業を展開。



キーワード

内発的

6次産業化

食育

雇用創出

乳製品

基本情報

- 所在地：滋賀県竜王町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：有限会社古株牧場
- 選定表彰：
 - R1全国優良経営体表彰農林水産大臣賞
 - R2第59回農林水産祭天皇杯（多角経営部門）
- 主力商品：乳製品
- 活用している地域資源：畜産
- 主な国等の支援策：H27総合化事業計画

取組の概要

- 自社で搾乳したミルクを牧場内の直営店でジェラート・チーズに加工し販売。チーズの他に自社で育てた近江牛を使用したランチ等も提供。
- 自社で搾乳したミルクの他、地元の養鶏場の新鮮な卵や養蜂場の蜂蜜を使用したプリン等の洋菓子や、地元果物を使ったジェラートに加工し販売。
- チーズ・バターが出来上がる工程を体験できるプログラムを開発し、食に興味をもって貰えるように発信する事で食育を展開。



店舗の様子

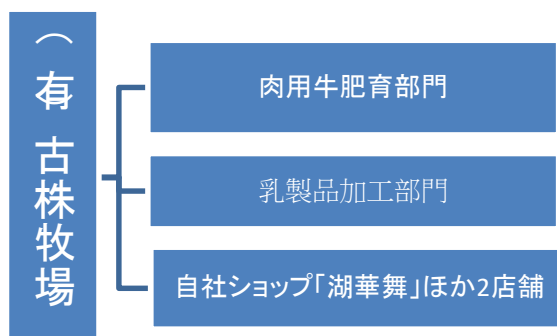


石窯ピザ作り体験



ラクレットチーズランチ

体制図



取組の成果

- 商品については、自社ショップ「湖華舞」をはじめ、直売店2店舗のほか、有名ホテルや百貨店等でも販売され、古株牧場のブランドを確立。
- 常雇・臨時雇を含め27名の雇用を創出。
- 取組は県内畜産農家にとって刺激となり、県内において6次化産業に取り組む者が増加するなどその波及効果は絶大。

所在地▶滋賀県滋賀県蒲生郡竜王町小口1183-1

連絡先▶TEL:0748-58-2040 FAX:0748-58-0004

Email:info@kokabu.co.jp

ウェブサイト▶http://kokabu.co.jp/

- 東近江ムラサキ紫縁（支援）プロジェクトとして、「限界集落」の「耕作放棄地」を開墾し、「絶滅危惧種」の「紫草」の栽培と6次産業化による地域活性化に取り組む。



キーワード

内発的

企業・学生

地域おこし協力隊

オーガニック

耕作放棄地

基本情報

- 所在地：滋賀県東近江市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社みんなの奥永源寺
- 選定表彰：
 - R1 グッドライフアワード
 - サステナブルビジネス賞(環境省)
- 主力商品：農林水産物（根）
- 活用している地域資源：
 - 特用作物、耕作放棄地、絶滅危惧種



紫草（ムラサキ）

取組の概要

- 東近江市の「産地・市役所・農業高校・加工業者等」が連携したプロジェクトにより、「紫根の生産」に成功。
- 紫根を活用した6次産業化商品「オーガニックシコンコスメ」を開発。



紫草の根（シコン）

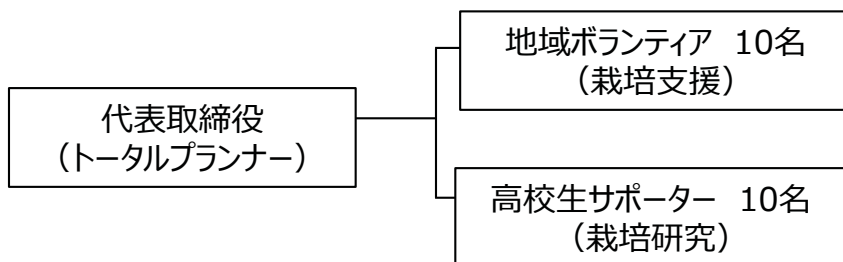


高校生と地域住民共同で紫草の植付



オーガニックシコンコスメ

体制図



取組の成果

- オーガニックシコンコスメの売り上げは、3,800千円(H30)から15,000千円(R01)に増加。
- 全国の百貨店・東急ハンズ・羽田空港の免税店で販売するほか、海外の百貨店等にも進出。



所在地▶ 東近江市君ヶ畑町844番地

連絡先▶ TEL:0748-56-1194 FAX:080-3108-7172

E-mail:shinsan2014@gmail.com

ウェブサイト▶ <https://www.kokocool-shiga.jp/selection/67>

- 「フードリサイクルで究極の地産地消を！」をキャッチフレーズとして、社員食堂から出る生ゴミを堆肥化し、それを用いて野菜を育て再び食堂で提供するフードリサイクルに取り組む。



キーワード

外部との連携

企業・学生

教育

リサイクル

基本情報

- 所在地：滋賀県草津市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：オムロン（株）草津事業所
滋賀県立湖南農業高等学校

- 選定表彰：
R1「滋賀県低炭素社会づくり賞」
(オムロンが受賞)

- 主力商品：生ゴミ
- 活用している地域資源：
食品ロス



- 主な国等の支援策：
生ゴミで作った堆肥
草津市と農業の振興やまちづくりの推進
協力協定の締結（H30・湖南農業高校）

取組の概要

- オムロン（株）草津事業所では、H12年からフードロス削減に取り組み、食べ残しを減らしつつ、野菜くず等の生ごみを敷地内で全て堆肥化し、H13年以降は生ごみ廃棄ゼロを実現。
- 高校では、農業実習においてオムロン堆肥を用いてトマト、ホウレンソウ等の野菜を生産。オムロン見学ツアーで、自らが作った野菜の納品の様子を確認し、野菜作りのモチベーション向上。
- 毎年夏にオムロンで開催する野菜即売会は、オムロン社員が心待ちにするイベントになったほか、社員とその家族が高校生とともに野菜作り体験を実施。



社員食堂で高校産野菜のサラダ販売

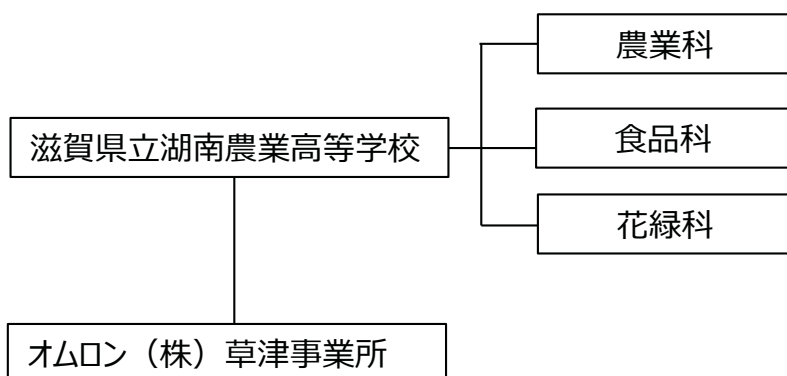


オムロン堆肥を使ったダイコン収穫



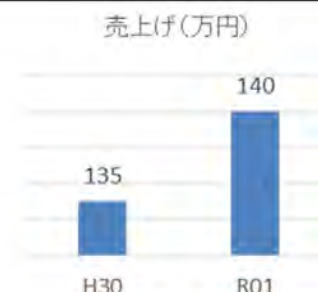
市内で実施される販売会の様子

体制図



取組の成果

- オムロン堆肥投入後の野菜部門売り上げは、135万円(H30)から145万円(R01)に増加。
- 販売会は、市内各地で実施され、H30は、22(2)回、R01は25(3)回と増加。
※()内はオムロン草津事業者内で実施



所在地▶滋賀県草津市草津町1839

連絡先▶EL:077-564-5255 FAX:077-562-1186

E-mail: konanno-h@pref-shiga.ed.jp

ウェブサイト▶ <http://www.konanno-h.shiga-ec.ed.jp>

- 聴覚障害者やひきこもり経験者等が宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど高品質な京都の伝統野菜の生産と加工作業を通年で従事しており、農福連携の普及啓発に取り組む。



キーワード

内発的

障がい者

6次産業化

農福

J G A P

基本情報

- 所在地：京都府京田辺市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：就労継続支援B型・さんさん山城
(社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)
- 選定表彰：
R2グッドライフアワード
環境大臣賞（NPO/任意団体部門）
R1ディスカバー農山漁村の宝選定
H31京都府スイーツコンテスト
最優秀賞（濃茶大福）
- 主力商品：農林水産物
(茶・エビイモ・万願寺
唐辛子・田辺ナス)
- 活用している地域資源：
茶、エビイモ



濃茶大福

取組の概要

- 宇治茶の手摘みや「エビイモ」の手掘りなど、障がい者の手作業等により、高品質な京都の伝統野菜等を生産。また、これらを活用し付加価値性の高い加工品の開発、販売も行っている。
- 併設のコミュニティカフェでは、メニュー作りから接客、調理まで障がい者が中心となり行う。
- R1年にノウフクJ A S(第1号)認証の取得。R2年、新たに仲卸業者との取引が始まり、祇園の料亭や高級ホテルに食材を卸すなど、販路が拡大。J G A P 認証も取得し持続可能な農業を推進。



エビイモの収穫作業

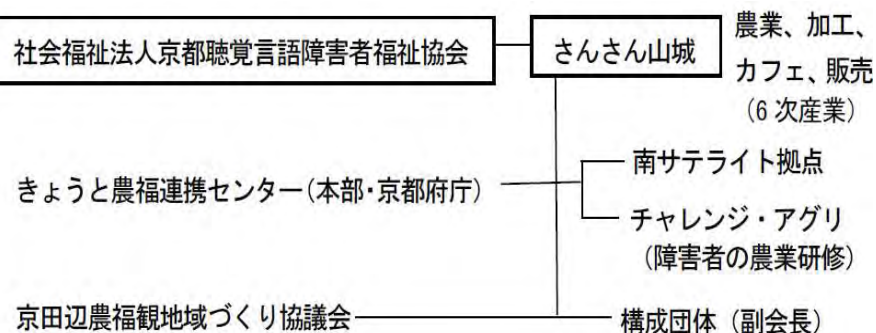


宇治茶の手摘み作業



さんさん山城コミュニティカフェ

体制図



取組の成果

- 野菜、加工品、コミュニティカフェなどの売上げは570万円(H26)から1,620万円(H31)へ増加。
- さんさん山城を利用する障害者の年間延べ人数も3,486人(H26)から5,029人(H31)へ増加。



所在地▶京都府京田辺市興戸小毛詰18-1

連絡先▶TEL:0774-39-7113 FAX:0774-65-4102

E-mail:shinmen@kyoto-chogen.or.jp

ウェブサイト

▶<http://www.kyoto-chogen.or.jp/communityplaza/sunsunyamashiro/>

【取組のプロセス】

都市開発と高齢化で農業の衰退が著しく、障害者が地域の一員として活躍・貢献できる仕事として農業にチャレンジ

2011年～

きっかけ

○事業所開設 地域特産の農作物の栽培、地元に根差した活動を開始

地域特産を活かした加工品製造に着手し、収益向上

○規格外のえびいもを活用した「えびいもコロッケ」や手摘みの高級宇治抹茶を使った「濃茶大福」「濃茶クッキー」など、付加価値性の高い加工品を開発し、販路を拡大。地域の人気商品に。



(えびいもコロッケ)

2014年～

2016年 地産地消に取り組み「京都やましろ食材提供店」認定

市民が集うコミュニティカフェをオープン

○さんさん山城産の新鮮野菜をふんだんに使った日替わりランチをワンコインで提供。毎日多くの市民で賑わう。開店から3年でランチ提供数3万食を突破。ランチ以外の時間帯もカフェを開放し、障害のある人もない人も子供から高齢者まで多種多世代の人達が集う、今や地域になくてはならない場所となっている。



(濃茶クッキー)

2017年～

2018年 全国初、障害者のキャリア認証制度「チャレンジアグリ」を開講

農福連携を世界に発信

○ HPを英語、中国語（簡体、繁体）、韓国語の4言語対応に。農福連携を世界に発信。
○2019年6月に韓国済州島で開催された「SDG s 済州国際会議」で取組実践を報告。国連高官ら世界各国の関係者から高い評価を受けた。



(日替わりワンコインランチ)

2019年～

2019年「農福連携等推進会議」に有識者として参画

○これまで築き上げた地域との関係や作業ノウハウを活かして、人手のかかる農作業ならびに農地管理など、地域が抱える農業課題を地元の福祉事業所間で共有・連携を行い解決に繋げていくシステムを構築する

○障害者だけでなく引きこもりや触法者などの受け入れも行い、「誰もが社会の一員として活躍できる農福連携」を実践する。

○各方面の研究機関と連携をはかり「農福連携」が学問分野の一つとなって、障害者も高等教育機関で学ぶことができ、ひいては障害者が地域で活躍できる社会を創造する。



(SDG s 済州国際会議)

今後の展望

○京野菜のなかでも周年栽培可能な「九条ねぎ」に特化した生産と多様な販路の開拓に取り組む。



キーワード

内発的

女性の活躍

6次産業化

九条ねぎ

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 地域指定：平場農業地域
- 団体名：農業生産法人こと京都株式会社
- 選定表彰：
H29全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞受賞
H30第57回農林水産祭天皇杯（多角経営部門）
- 主力商品：九条ねぎ
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- ねぎ生産者団体「ことねぎ会」を立ち上げ、会員生産農家が策定した生産計画を基に契約を結び周年安定供給を実現。
- 商工系カット業者には真似のできない加工を実現し、乾燥ねぎや料理店のシェフと提携したねぎ油等の付加価値のある加工生産を実施。
- 新規就農者等を対象に「独立支援研修生制度」を設け、栽培技術だけでなく「農業経営者」を育成。また、女性社員の管理職への登用等、あらゆる場面で女性の活躍を推進。



ねぎ栽培の様子

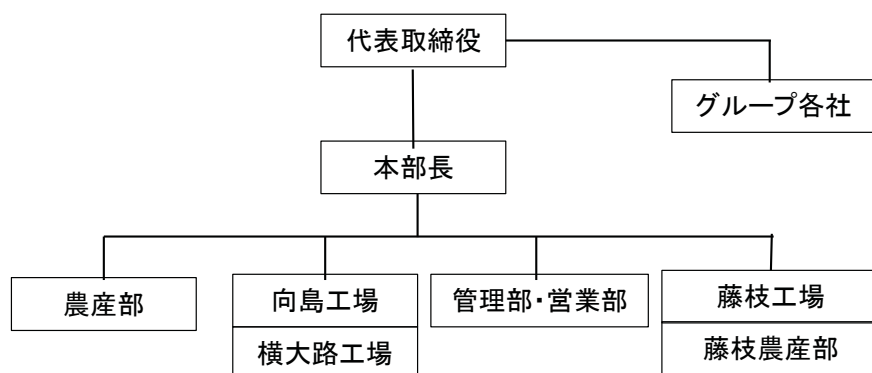


九条ねぎの加工の様子



ねぎ加工品

体制図



取組の成果

- 九条ねぎの需要開拓により、京都府内の九条ねぎの生産活性化に貢献。
- ねぎ等の生産を行う農産部や加工部等の4部門を組織し、常時雇用55名を含む従業員174名（R2）の経営体へと成長。
- 九条ねぎのブランディング及び販路拡大により、グループ売上高は約18億円（R2）。

所在地▶京都府京都市伏見区横大路下 三栖里ノ内30番地

連絡先▶TEL:075-601-0668 FAX:075-601-0662 Email: -

ウェブサイト▶<https://kotokyoto.co.jp/>

- 大阪湾の鮮魚は脂ののりが良く“旨い魚”として評価が高い。一方で認知度が低く、仲買人との相対取引の結果、和歌山や兵庫等の市場価格（主に「競り」）よりも常に安値であり、魚価の向上が課題であった。また、労働生産性の向上も希求されていた。
- 大阪府鰯巾着網漁業協同組合、岸和田市、大阪府が取組を推進し、デジタル化による事務効率向上と、魚価向上を達成。



キーワード

内発的

競り取引

IOT

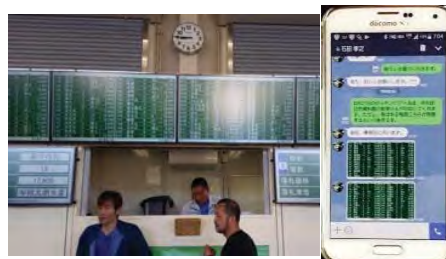
シラス等

基本情報

- 所在地：大阪府岸和田市
- 地域指定：－
- 団体名：岸和田臨海地区地域水産業再生委員会
- 選定表彰：平成29年度 浜の活力再生プラン 優良事例表彰 水産庁長官賞受賞
- 主力商品・イベント：生シラス丼
- 活用している地域資源：シラス、マイワシ、サワラ、スズキ等の「泉州プレミアム鮮魚」
- 主な国等の支援策：水産業競争力強化緊急事業

取組の概要

- 入札データのデジタル化（IOTの活用）
これまで手書きの入札形式であったが、電子入札に変更したことで大幅に事務作業を軽減。また、入札結果をLINEですぐに漁業者へ配信することで、情報伝達のスピード向上。
- 荷揚げ場所の集約と相対取引から競り取引への移行
地区内で漁獲されるシラス等の水産物を岸和田の競り場に集約し、統一した鮮度保持対策を講ずるほか、相対取引から競り取引に移行することで、魚価単価を向上。



体制図



取組の成果

取組開始前と開始後のイカナゴ・シラス平均単価（円/kg）

大阪	イカナゴ	シラス
平成22年～26年（5中3）	413	286
平成26年～30年（5中3）	約3.0倍 1,233	約1.7倍 481

所在地▶〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町7番1号

連絡先▶TEL:072-437-5777 FAX:072-437-5666 E-mail:

ウェブサイト▶<http://www.sensyusaisei.com/>

○平成16年に設立された農事組合法人が多様な取組を通じて地産地消や食農教育を進める。



キーワード

内発的

大学との連携

食育

地産地消

基本情報

- 所在地：大阪府河南町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：農事組合法人かなん
- 選定表彰：
 - R1ディスカバー農山漁村の宝選定
- 主力商品・イベント：町内産農産物及び農産加工品、収穫体験、職業体験実習
- 活用している地域資源：町内産農産物、教育機関

取組の概要

- 学校給食センターや幼稚園、福祉施設などへの野菜や味噌の納入や、地域の小中学校を対象とした職業体験実習を受け入れるなど、食農教育に積極的に取り組む。
- 地場産農産物を使用した加工品を開発するなど、6次産業化にも取り組み、イベントや道の駅（直売所）で販売。



道の駅かなん及び直売所

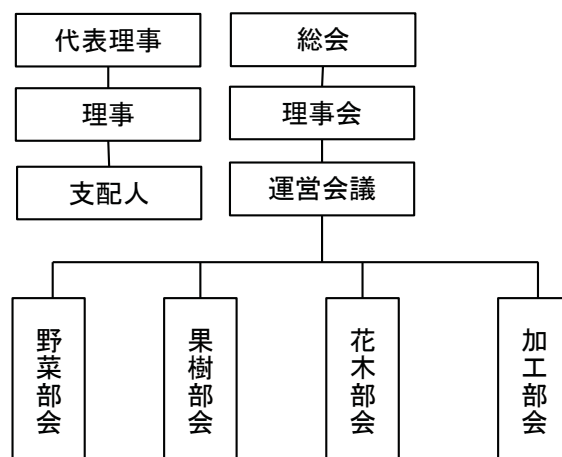


河南町内小学校での食育出前教室



収穫体験イベント

体制図



取組の成果

- 町内産農産物を使用した加工品の品数は年間で100種類以上にもなり、町内産農産物及び農産加工品の直売所での売上は約2.8億円（R1）。
- 使用する野菜全てを町内産でまかなう給食（お野菜まるごと河南町の日）を年4回実施。

所在地▶大阪府南河内郡河南町神山523番地の1

連絡先▶TEL:0721-90-3911 FAX:0721-39-3912

Email:mitinoeki.kanan@sunny.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.michieki.jp/kanan/>

- 西日本一古いワイナリーが都市住民や企業との連携により伝統ある大阪ぶどう産地の活性化を通じ、伝統ある農山漁村の次世代への継承に取り組む。



キーワード

内発的

食育

6次産業化

ワイン

基本情報

- 所在地：大阪府柏原市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：カタシモワインフード株式会社
- 選定表彰：
H28 6次産業化優良事例表彰農水大臣賞
R2 フェミナリーズ世界ワインコンクール
日本ワイン部門金賞(TOP OF THE BEST)
- 主力商品：農林水産物（ぶどう）
- 活用している地域資源：農地、ワイン



開発したワイン【中央】

取組の概要

- ワインには不向きとされてきた地域で栽培される主要品種「デラウェア」を使った新製品の開発を進め、大ヒット商品を誕生。
- 農業者に省力的なワイン用ぶどう生産を働きかけ、買上単価アップを図り、農業者の収入増加を支援するとともに、本地域の素晴らしさを伝えるため地域連携イベントを開催。
- 耕作放棄地となる可能性のあるぶどう園を積極的に借り上げて、栽培等のボランティアとして育成した都市住民や企業等と連携し、管理する仕組みを構築。

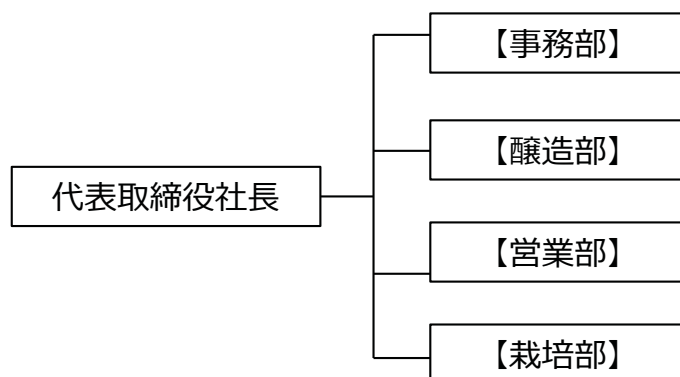


ぶどう園

地域連携イベント
「おもしろいんカタシモワイン祭り」

古民家を活用した事務所

体制図



取組の成果

- 栽培等ボランティアが管理する農地面積は、170a(H25)から290a(H29)に増加。
- ボランティアの人数も、425人(H25)から480人(H29)に増加している。

ボランティアと管理する
農地面積(a)

所在地▶ 柏原市太平寺2-10-5

連絡先▶ TEL:0729-71-6334 FAX:0727-91-7337 E-mail: —

ウェブサイト▶ <https://www.kashiwara-wine.com/>